



人でにぎわう狸小路商店街

札幌TMOが取り組む狸小路商店街・大通地区・すすきの地区の支援活動

札幌商工会議所が都心のまちづくりを進めるために策定した「札幌TMO構想(中小小売商業高度化事業構想)」が今年七月、中心市街地活性化法に基づき認定を受けました。それを受けて発足した「札幌TMO」は、札幌商工会議所に設置された、まちづくりを運営・管理する機関です。都心では市民・商店街・地区組織・民間企業・NPO・行政機関などがさまざまな活動を展開しています。札幌TMOはそれらの団体と協働し、連携を図りながら、都心の活性化につながる事業の調整役となります。現在進んでいる狸小路のアーケード改修事業では、TMOが国の支援制度の導入などの調整や支援を行い、事業主体である札幌狸小路商店街振興組合と協働で商店街の活性化に取り組んでいます。これにより、アーケード自体の更新だけでなく光ケーブルの導入、サインボード、防犯カメラの設置なども行われ、回遊性の高い歩行者モールとして新たな魅力が加わります。地区のまちづくりを支援する活動としては、都心での交通渋滞の緩和



すすきの地区

国と協力して 都心まちづくりを 推進! 国の都市再生施策とは? 国(都市再生本部)では、「20世紀の負の遺産の解消」と「21世紀の新しい都市創造」を方針に掲げ、都市再生プロジェクトの選定や都市再生特別措置法の制定など、都市再生を通じた構造改革に取り組んでいます。札幌市では、7月に都市再生プロジェクトの4次決定として、「歩いて暮らせる豊かで快適な都心の創造」と「環境負荷の低い新たなエネルギー有効利用都市の構築」を内容とする、「人と環境を重視した都心づくり」が取り上げられました。また10月には、都市再生特別措置法の規定に基づく「緊急整備地域」として「札幌駅・大通駅周辺地域」と「札幌北4条東6丁目周辺地域」の2地域が指定されました。これら一連の国の施策と連動させながら、都心のまちづくりを効果的に展開していきます。

私の言



風土的都市デザインと札幌 伊藤滋氏



伊藤滋(いとう・しげる) 1931年生まれ。早稲田大学理工学部教授。東京大学名誉教授。専門分野は都市防災、都市計画。札幌市・都心まちづくり計画策定協議会顧問。



北海道の風土は、北欧やアメリカ北東部に似ているとよく言われる。森や林を歩き、広大な農地を眺めるとき、確かにその共通性を感じる。光と陰影がつくりだす自然環境の美しさは素晴らしい。北海道が備える風土的特質はこの光の鮮やかさと清明さであろう。しかし、自然が与える光と陰影の感動を、都市において受けるであろうか。その答えは否定的である。都市は北海道が誇る光の贈り物を十分に生かしていない。風土とは、自然環境と人工環境が共同してつくりだす文化的表現といえる。そうであれば都市という人工環境をより質の高いものにしていくなければならない。北海道の風土は高い評価を受けられない。北海道の風土性、そしてその都市における空間的表現について私は定見がない。言えることは、少なくとも東京の建築群やその市街地像と同じではないといつことである。そして他方で、北欧諸都市のイメージ・ションであったはならないといつことである。幸い北海道の諸都市には、本州と比べて道路や公園などの公共用地が十分にある。問題は、その空間の質が必ずしも高くないこと、道路や公園と建物の関連について